

# 平成16年3月期 第3四半期業績の概況（連結）

平成16年2月6日

上場会社名 焼津水産化学工業株式会社 (コード番号：2812 東・名 第1部)

(URL <http://www1.sphere.ne.jp/y sk/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 坂井 和男 (TEL：054-628-6388)  
責任者役職・氏名 取締役経理部長 丹治 宏一

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高（又はこれに相当する事項）の会計処理の方法の : 有・無  
最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無

## 2. 平成16年3月期第3四半期業績の概況（平成15年4月1日～平成15年12月31日）

### (1) 売上高（又はこれに相当する事項）

期別	売上高	前年同期比
16年3月期 第3四半期	11,121 百万円	1.4%
15年3月期 第3四半期	10,964	-
(参考) 15年3月期	14,329	0.1

(注) 売上高（又はこれに相当する事項）は、当該四半期までの累計値である。  
パーセント表示は、前年同四半期比増減率を示す。

### [ 売上高に関する補足説明 ]

当第3四半期のが国経済は、デフレ基調に変わりはないものの、一部、企業収益に改善が見られ、株式市況にも明るさが戻るなど、景気回復への期待が強まりましたが、一方で急激な円高・ドル安が進行するなど、引き続き厳しい状況で推移しました。

当食品業界においても、消費マインドが一向に盛り上がらないなかで顧客の獲得競争が激化し、企業間の格差が一層顕著になったこの四半期でありました。特に年末にはアメリカでのBSE牛の確認や、鳥インフルエンザ問題など、消費回復に水を差すような状況が発生し、現在も続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、連結売上高は111億21百万円となり、当連結会計年度（平成15年4月1日から平成16年3月31日）の予想売上高（15年11月18日公表）に対する進捗率は76.4%となりました。

セグメント別では、調味料事業については、市場ニーズに対応した新製品の開発・投入を行ってまいりましたが、消費構造の変化も顕著になり、また、取引先の内製化も更に進行するなど苦戦を強いられ、目標を達成することができませんでした。

一方、取り組みを強化してきている機能食品事業では、量産体制を整えたコラーゲン類や、グルコサミン類、医療栄養食などの製品群が、BSE問題も追い風にして売上を拡大することができました。

その他事業でも、香辛料分野で特需に恵まれるなど、大幅な増加を見ることができました。

全体としては、調味料事業の不振を、機能食品・その他事業でカバーし、前年同期1.4%の増加となりました。

各セグメントの外部顧客に対する連結売上高は以下のとおりです。

調味料事業	7,435 百万円	(前年同期比増減	8.5%)
機能食品事業	2,611 百万円	(前年同期比増減	38.3%)
その他事業	1,074 百万円	(前年同期比増減	12.7%)

なお、従来の具材、香辛料の分類は、全体の売上高に占める割合が開示基準に満たなくなってきたため、当期より事業区分の方法を変更し、具材は調味料分類へ、香辛料は従来の調味料分野の中の、より川下の製品とあわせ、その他分類としております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象  
該当事項はありません。

3. 平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通 期	14,550	1,220	1,270	710

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 50円 51銭

通期の業績は、平成15年11月18日に公表した通りに進捗しており、業績予想の変更はありません。

\* 上記の予想には本資料発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想が含まれておりません。  
実際の業績は、今後様々な要因により大きく変動する可能性があります。